学校だより

八幡の子

令和７年１２月号

富山市立八幡小学校

メディアの上手な使い方

養護助教諭　酒井　佑華

１１月１３日(木)、「メディアの上手な使い方を考えよう」をテーマに学校保健委員会を行いました。富山市北保健福祉センターの保健師・山田雅実先生から、長時間のメディア利用による心身への影響についてお話を聞いた後、３～６年生の児童と保護者、教員がグループに分かれ、メディア利用時の家庭での工夫やルールについて話し合いました。

事前アンケートでは、３～６年生の６割が１日３時間以上メディアを使っており、中には８時間以上使う児童もいました。本校では裸眼視力が０．９以下の児童も多く、特に高学年では割合が高くなっています。児童や保護者からは「使用時間がつい長くなってしまう」「目の疲れや姿勢が気になる」「携帯電話を持たせる場合、どのようなことに気を付ければよいか分からない」といった声が寄せられ、家庭での利用管理の重要性が浮き彫りになりました。

グループでの話合いでは、児童から「宿題をしてから使う」「家族で時間を決める」「読書や習い事等のメディアを使わない楽しみを見付ける」等の意見が出て、それぞれの家庭での工夫を共有できました。さらに山田先生からは、休憩をはさんだり家族みんなで取り組んだりすることも効果的なメディアコントロールの方法だと教わりました。活動を終えた児童や保護者から、「健康に気を付けて使いたい」「家族と過ごす時間を大切にしたい」「大人も子供と一緒にルールを守りたい」等の感想が聞かれ、家庭でメディアを上手に使おうとする実践意欲が高まりました。

学校保健委員会の後、この学びを生かして、全校で「メディアコントロールチャレンジ」と「はちまんけんこうチャレンジ」を行いました。児童一人一人が自分の生活を振り返り、健康的な生活習慣を身に付けることができるようこれからも取り組んでいきます。

読書で心豊かな時間を

図書担当　　宮本　淳子

１０月２７日(月)～１１月９日(日)は読書週間でした。すべての世代の人たちに読書の楽しさを伝え、本に親しむきっかけをつくることを目的に、全国で行われている読書推進運動です。

本校では、学校司書による民話「白ナマズの泉」の読み聞かせを行いました。地域の人たちにとって古くから親しまれてきた「鯰温泉」由来のお話です。ある漁師が母親の病気を治す薬を探していたところ、白ナマズがいる不思議な水を発見。その水こそ「鯰温泉」の水。薬効のある水として今でも言い伝えられています。自分たちが住んでいる八幡校区に、このような伝説が残されていたことに驚き、どの子も集中して耳を傾け、物語の世界に浸っていました。

また、図書室には、その他の富山にゆかりのある民話や富山県出身の作者の本を集めた「富山にまつわるお話コーナー」を設置し、いろいろなお話の世界を楽しめるようにしてあります。読書を通していろいろな物語に触れ、心豊かな時間を過ごすことのできる人に育ってほしいと願っています。